

「洋上風力」に出展社多数

国際風力発電展、15年2月開催

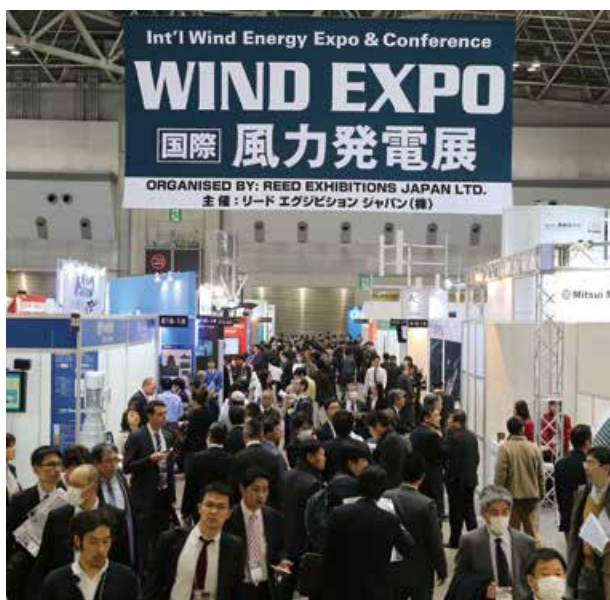
日本初の国際風力発電展として2013年から始まった「WIND EXPO ～ [国際] 風力発電展～」。15年2月25～27日に開催される第3回では、会場内に「洋上風力ゾーン」が新設される。洋上風力市場での世界トップメーカーの幹部らも相次いで来日する予定だ。

欧州を中心に世界的に市場が拡大している洋上風力発電。日本でも政府が、各地で進める実証事業に続き、洋上風力の電力買取価格を新たに設定したことで、具体的な民間のプロジェクトも動き始めようとしている。太陽光に偏重していた再生可能エネルギーを修正する方針なども示され、成長市場として期待が高まっている。

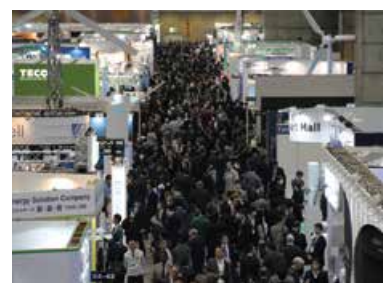
こうした中で注目を集めそうなのが、15年2月に東京ビッグサイトで開催される[国際]風力発電展だ。風力発電の専門展示会として過去2回の開催では、風車や構成部材、サービスなど風力発電ビジネスに関する多岐にわたる企業が出展したが、今回は新たに「洋上風力ゾーン」が設けられることになった。

このゾーンには、「洋上風力」に関する技術やサービスが一堂に集まる予定。浮体式洋上ウインドファームの実証プロジェクトを進める福島コンソーシアムや、世界初の浮体式潮流・風力ハイブリッド発電システムを手掛ける三井海洋開発が出展するほか、中国塗料や東京汽船など、海事産業にはなじみの深い企業らも出展する予定だ。

洋上風力で先行する欧州諸国も、日本市場を注視している。今回はオランダが洋上ゾーンでナショナルパビリオンを展開する予定だ。



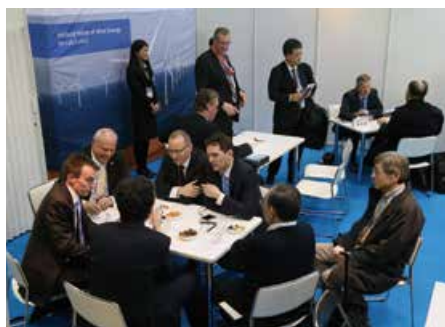
風力関連のメーカーが多数出展する（写真はいずれも前回開催時）



展示会場



セミナーは前は回は満席だった



各ブースでは商談が行われる



記念レセプションには要人らが集まる

展示会と同時期に併催されるセミナーで、今回は洋上風車メーカー世界首位の独シーメンスの風車部門トップ、マルクス・タッケ最高経営責任者（CEO）が基調講演するほか、技術セミナーでは、三菱重工とVESTAS社の合弁会社として設立されたMHIヴェスタス（洋上風車世

界2位）の技術トップ、トーベン・ハラセン最高技術責任者（CTO）、世界最大の洋上風力発電事業者であるデンマークのドン・エナジーが講演するなど、世界の洋上風力の要人が展示会に合わせて来日する予定。日本の洋上風力市場の今後を占う3日間となりそうだ。

「ビジネスの場として定着」

風力発電展の狙いや今回の特徴について、主催者リードエクジビジョンジャパンの田中岳志取締役第一事業本部長（写真左）と向真毅課長に聞いた。

——風力発電展をスタートした経緯は。

当社は従来から太陽光発電や蓄電池など、エネルギー関係の展示会を開いていたが、展示会に来場される電力会社や事業者、風力発電業界の方々から、風力の展示会を開いてほしいとの要望があった。こうした声を受けて、13年から日本初の風力発電の展示会としてスタートした。日本における風力発電のマーケットは大きくなかったが、再生可能エネルギー政策で太陽光だけでなく風力なども振興する方針が出ている。世界では、再生可能エネルギーの4番バッターは風力。日本もそこに近づいていくのではないかと考えている。

——過去の開催経緯は。

初回は当初の予定を上回る150社にご出展いただき、前回は187社と順調に拡大している。およそ4分の1が海外企業で、前回はデンマーク、イギリス、アメリカ、オランダ、カナダなどが、ナショナルパビリオンを設立した。日本初の風力専門の展示会ということで、既に国際ビジネスの場として定着しており、風車メーカーや部品・機械メーカーが出展し、新しい製品や技術を売り込んでいる。シーメンスやエネルギーコンのような世界的な大手企業が毎回出展し、またリピートする出展社が多いことから、出展によるビジネス成果が上がっているということを示していると感じている。来場する専門家らも、従来は欧米に向かないとできなかったビジネスや商談が、日本にいながらにできるというメリットがある。

——企業にとって出展の意味は。

通常の営業活動と、展示会への出展には、別の意味があると思っている。展示会というオープンな場に出して実績などを伝えることで会社の信頼を得ることができたりする。市場への新規参入を図る企業であれば、直接営業に行くことが難しくても、展示会であれば広く伝えることができ、新規参入のきっかけがつかめる。

また、本展は商談展というコンセプトの下、招待券を60万~70万枚配布しているが、ビジネスの精度を高めるため「商談のための展示会」と大きく明記しており、目的意

識の高い方でないと来場しない。それがビジネスの雰囲気醸成している。

——15年2月に第3回を開催するが、今回の特徴は。

展示会場面積を前回比でおよそ20%拡張する。各出展社が商談スペースを設けたり展示物を大型化するために個別のブースを大きくする見通しだ。予定では180~200社が出展する見込み。風力だけでこの規模の出展社が集まるということには、業界の方々も驚いている。業界の古参の人にもあまり知られていないような会社や、新規参入の会社も相当出展し、期待値が高い。

——洋上風力発電ゾーンを設ける。

今回はいくつかの専門ゾーンを設立するが、このうち最も注目が高いのが洋上風力ゾーンだ。もともと洋上風力関連の技術も出展していたが、前回までの来場者アンケートで、これから洋上風力の市場が日本でも盛り上がる中で、技術をまとめて見たいという要望があった。洋上風力ゾーンだけで40~50社が出展する見通し。もちろん、このゾーン以外に出展社の中にも洋上向けの製品を扱っている会社はある。日本政府もエネルギー政策の中で、海洋国として洋上エネルギーを生かしていこうという方針を掲げている。洋上風力で先行している欧州のメーカーも、こうした日本の政策を受けて、日本の洋上風力市場を新しいマーケットとみなして進出したいという意向を持っており、展示会も盛り上がるだろう。

——セミナーやパーティーなども行われる。

今回は基調講演で独シーメンスの風車部門トップを招くほか、風力発電分野の第一線で活躍する方々が講演者として並ぶ予定だ。前回は基調講演だけで1000人が集まり満席だった。また夜のレセプションパーティーには、海外の大手メーカーの経営トップも集まり、風力業界のキーパーソンが情報交換を行う場になる。今までよりも一回り充実した内容になる。

